


所属部門	安全・防災	専門分野
研究分野	地震工学, 防災学	土木工学, 地震工学, 防災学
 <p>吉田 雅穂 教授 環境都市工学科 地震防災研究室 masaho@fukui-nct.ac.jp</p>		キーワード
		地震, 防災・減災, ライフライン, 木材, 文化遺産
		所属学協会・研究会
		土木学会, 地盤工学会, 日本建築学会, 日本自然災害学会, 日本地震工学会, 日本工学教育協会, 福井地震防災研究会, 福井県木材利用研究会, NPO 福井地域地盤防災研究所, 関西ライフライン研究会

研究テーマ

【木材を用いた地盤補強技術】

木材の用途拡大のため、丸太を地盤に打設して地盤補強する技術を開発し、戸建住宅の液状化対策や道路盛土の軟弱地盤対策に活用しています。下図は福井県小浜市で行った現場施工実験の様子です。



【ジオシンセティックスと砕石を利用した液状化対策】

ジオシンセティックスを砕石で挟み込んだ層を道路盛土の直下に敷設し、盛土の液状化時変形を抑制する工法を開発しています。

【ウェブ版地震防災支援システム】

地震防災教育に活用するため、1948年福井地震等の災害資料をデジタルアーカイブ化してインターネット上で公開しています。また、アンケート震度を調査するサイトを利用して、地震時の地域の詳細震度分布を推定しています。

【文化遺産の防災対策】

文化遺産を自然災害から守り後世に継承することは大変重要です。そこで、福井県が所有する文化財建造物と立地地盤の耐災性を調査し、今後の防災対策を提案しています。下図は調査対象の1つである越前市の旧谷口家住宅です。



主要設備・得意とする技術

○水平2軸地震波振動台（株式会社サンエス, SPT2D-20K-85L-80T）

2m四方のテーブル上に構造物模型や工業製品を設置し、地震波、規則波、衝撃波を水平1方向または2方向同時に入力して、その応答を計測できます。5,000kgまでの積載が可能であり、無負荷の状態では加速度2G、速度120cm/s、変位±20cmの地震波で加振する能力を有しています。

○携帯用振動計（株式会社東京測振, SPC-52, VSE-15D5）

コンピュータ搭載の可搬型振動計であり、地盤や構造物の常時微動観測、余震観測、環境振動観測などが行えます。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

- ・木材を用いた液状化対策と軟弱地盤対策の技術開発
- ・構造物や工業製品の振動特性の分析
- ・地域の地震防災計画の立案
- ・地震防災に関する講習会